

## 4章

### 問題

#### 【1】

#### 解答・解説

(1) Little did I know what was going on in the heart of my sister.

「妹〔姉〕が心の中で何を考えていたのか私は全くわからなかった。」

否定の副詞が文頭に出るとその後は倒置形になる。little が think, suppose, dream, imagine, realize, understand などの前に置かれると「まったく～ない (= never)」の意味になる。

(2) (and) so can you

「私が試験に受かったんだから君にもできる。」

○肯定文, so V S 「S もまた V である」

A : I like this food. 「この食べ物好き。」

B : So do I. 「私も好き。」

(3) not

「彼が来月また来てくれると思いますか。私はたぶん来ないと思うのです。」

so, not を be afraid, hope などの動詞の目的語となる that 節の代わりに用いる場合がある。so は肯定の that 節, not は否定の that 節の代わりとなる。

(4) Emily did try to change her father's mind.

「エミリーは本当に父の気持ちを変えようとしていた。」

動詞を強調する場合, 強意の助動詞 do を用いる (いわゆる It is ~ that … の強調構文は使えない)。過去形の場合には did, 3 人称が主語の現在形の場合には does となる。

Ex. He does like ice cream. (彼は本当にアイスが好きだ。)

(5) It was because the teacher spoke in a very friendly manner that we felt really relaxed.

「私たちが本当にリラックスできたのは, 先生が大変親しく話してくれたからだった。」

It is ~ that … の強調構文では, 主語・目的語・補語などの名詞・代名詞や副詞 (句・節) が強調される。本問のように副詞節が強調される場合もある。

(6) Not until he came back home did he find he had left his mobile phone at the café. (= It was not until he came back home that he found he had left his smart phone at the café.)

「自宅に戻って初めて, スマートフォンをカフェに置き忘れていたことに気が付いた。」

Not until S V という否定の副詞節が文頭に出たために倒置形になることに注意。

(7) As much as I hate to admit it

「認めるのは嫌だが, 時には望んでいなくても他人の必要性を満たさねばならないこともあるのだ。」

As X as S V, = Though S V X, となる表現がある。Xには名詞（無冠詞）・形容詞・副詞が入り、As は省略されることが多い。

Ex. Rich as he is, he is not happy. = Though he is rich, he is not happy.

(8) No matter how hard you may try, (= However hard you may try,)

「どんなに頑張ってもそのレースに勝つことはできないだろう。」

‘動詞 + as S V’の形で‘譲歩’を表す表現。一般に -ever で書き換えられる。

## 【2】

A.

### 解答・解説

(1) d 「健康の価値は失って初めて分かる。」

= You do not realize the value of your health until you lose it.

= Not until you lose your health do you realize its value.

いわゆる It is ~ that …の強調構文である。

○ It is not until A that B 「Aになって初めてB」

(2) c 「しかし、列車が川を通過するや否や、橋は水面へと落ちて行った。」

○ scarcely [hardly] ~ when [before] … 「～するかしないかのうちに…」

= As soon as the train passed the river, the bridge fell into the water.

(3) a 「日本が今のような姿であることには十分すぎる理由があるが、その主な理由は、日本が他の姿にはなれないということだ。」

otherwise は形容詞で「別の」の意味となり、カッコの後が完全文となるため what は入らない。why では逆の意味となり文意が通らない。

(4) c 「その教授は、大阪に飛行機で行くのか電車で行くのかに関して何も言わなかった。」

接続詞 whether が、前置詞 as to の目的語となる名詞節を作る。as to which を「前置詞 + 関係詞」と見ることができそうでもあるが、それでは文意が通らない。

(5) b 「エイズの治療法を誰が見つけるかはほとんど重要ではない。それが見つかりさえすれば。」

as [so] far as S V も as [so] long as S V も「SがVする限り」と訳せるが、前者は「S Vを前提とした範囲」を表すのに対して、後者は「もしSがVならという条件」を表す。a では「治療法が発見される範囲内」となりおかしい。unless S V は「SがVでない限り」という意味であるから本文では不適。suppose (that) S V = supposing (that) S V は「もしSがVなら」と仮定を表せるが、supposed that という形はない。

(6) d 「昨晚私は姉と話をしなかったが、母もまたそうだった。」

否定文, nor V S. (SもまたVではない) を用いれば, ~, nor did my mother. となるべきなので, b では語順が合わない。また, 「～も」は肯定文では, 'too' を用いるが, 否定文では, 'either' となる。この際に, 最近ではカンマを省略することもある。

B.

### 解答・解説

(1) unless / serves

「私の記憶が正しければ、ジョンソンさんは7時ぴったりに出社します。」

- at seven o'clock sharp 「7時きっかりに」
- if my memory serves me (right) = unless my memory fails me = if I remember correctly 「私の記憶が正しければ」

(2) during / while [when]

「ロサンゼルス滞在中に私たちはムーア夫人と知り合いになった。」

一般に「～している間」は、'while SV = during 名詞'となるが、during doing の形にはならず、while doing の形になる。この while doing は（接続詞を明示した）分詞構文とも考えられる。

### 【3】

#### 解答・解説

本問ではいずれも (X) が前置詞、(Y) では副詞として用いられていることに注意。

(1) in

(X) 「下駄を履いて歩いているあの背の高い青年を見てください。」

(Y) 「遅れて着いたが、まだ列車はホームに入ってきていなかった。」

(2) up

(X) 「左に曲がって階段を上がってください。そうすると私のオフィスが見つかるでしょう。」

(Y) 「私たちは待ちました。そして彼女はようやく現れました。」

○ show up = appear

(3) off

(X) 「今度ばかりは見逃してあげましょう。」

○ off the hook 「危機から脱して、責任から免れて」

(Y) 「その会社に5年勤めた後トムは解雇された。」

○ lay off ~ 「～を（一時）解雇する」

(4) to

(X) 「私の知る限り、彼は信頼できる人です。」

○ to the best of *one's* knowledge = as far as *one* knows 「～の知る限り」

(Y) 「トーマスは突然気を失ったが、すぐに意識を取り戻した。」

○ faint 「失神する」

○ come to 「正気に戻る」

### 【4】

A.

#### 全訳

①習慣や偏見を捨てたくないという気持ちほど、偉大な芸術作品を楽しむ際の障害になることはない。慣れ親しんだ題材を思いもかけぬ手法で描いた絵が、正確であるようには見えないという理由だけで、非難されることが多い。②ある物語が芸術作品において表現されて

いるのを見るのが頻繁になればなるほど、その物語はいつも同じような手法で表現されなければならないと、我々はますます強く確信するようになる。

B.

全訳

言葉が話せるようになる過程は、歩くことができるようになる過程とは、全く種類の異なるものである。生まれたばかりの赤ん坊を社会から離してしまったとしても、その赤ん坊が歩くことができるようになる——もちろん、仮に生き続けることができたとしてのことだが——と信じるべき根拠は十分にある。しかし、言葉を話せるようには決してならないだろうということ、すなわち、ある特定の社会の伝統的な体系に従って、他人に考えを伝えることができるようには決してならないだろうということも、生まれたばかりの赤ん坊を社会から離してしまったとしても、その赤ん坊が歩くことができるようになるのとまったく同様に、確かなことである。

C.

全訳

①シェイクスピアが生まれ、そこで生きた社会の科学技術が我々自身の社会の科学技術より劣っていたからと言って、我々がシェイクスピアを低く評価するということはない。その上、彼の成した事は我々の永続的な科学技術の進歩に影響されるということは決してない。我々がカメラを改良し、さらに多くの車を造り、月に行ったりするにつれて、彼の成したことの重要性が次第に低くなっているということは絶対にない。②新しい発明の影響下で我々の風習が変化するにつれて、シェイクスピアが次第に理解しにくくなるということはあるも当然だが、これによって彼の偉大さが減じられると思う人は誰もいない。

D.

全訳

①現在使われている多数の言語形式と、過去において生じては減じた無数の言語のうちで、英語は、今日でこそ世界のかなり広い部分に広がってはいるが、その起源は、他のどの言語にも劣らず、とりたてて立派なものではなくはっきりしないものである。英語は、もちろん、イギリスで生じたものでは決してなく、5世紀と6世紀にこの島を征服したドイツの種族によって伝来されたものである。そして、②英語に最も近い関係を持った言語は、ドイツ沿岸の2、3の荒涼とした島々のいたって地味な方言の中に見いだされる。

【5】

解答

- (1) アイライナーは、いつもやさしく接しているのに、ジャックは彼女よりも傲慢で意地悪な態度をとっているベッシーに好意を抱いていることが理解できないでいるということ。
- (2) 「全訳」の下線部②参照。
- (3) 今の発言はわがままが過ぎる。3人(匹)はドクとケイトから、食と住に関して何の見返りも要求される事無く、他人からうらやましがられるほどの恩恵を受けているのだから。(80字)
- (4) b      (5) what      (6) d      (7) fed      (8) Bessie



**解説**

- (1) アイライナーは外見はかわいいが、臆病で内気な性格のせいで、他のものたちと親しい関係を結ぶのが苦手である (ℓ.18～20)。ジャックには優しくしている。ベッシーはジャックに対し傲慢で意地悪な態度で接しているにもかかわらず、ジャックの意識はベッシーに向いている。このことに割り切れない思いを抱いていることを読み取ろう。
- (2) 会話表現に関する問題。What is it with this guy? は言い換えれば What is the matter with this guy? である。会話における it が the matter, the problem or the reason を示すことがある。“this guy”とは後に登場するドクの事。いつまで待っても帰宅しない彼にいらだっていることが読み取れたらどうか。
- (3) 下線部③のジャックの発言に対するベッシーの答えとは、“Don't you think you're being a little selfish? We have a place to stay without paying rent, free food, and we can come and go as we please without having to do any housework. You know they can't say no to anyone. Some would consider us lucky.”であるので、この内容を読み取ること。居候をしている分際で、家の主人に不平を言うのはわがままであるということが発言の趣旨である。ただし、この発言の直前の描写から、ベッシーは何もドクを弁護しなかったわけではないらしいことがわかる。
- (4) Look into the distance とは「遠くの地点に焦点を合わせて見る」ことであるが、多くの場合何かを具体的に見るというよりは、物思いにふけるさまを装う時の態度であろう。いわゆる「カッコつけ」たい時、(特に男が)よくやる。
- (5) 相手の直前の発言 “I'm waiting.” に付加する形での “For ( ) ?” なので、「(いったい)何を待っているのか」の「何」にあたる疑問詞を考えればよい。
- (6) **d** Don't bother. あえてアイライナーの申し出を断るために Don't bother to look for food for me. ≡ Don't take the trouble to look for food for me. の意で言った。bother to *do* で「わざわざ…する」。
- a** Don't disturb. と言えば、ホテルなどでずっと寝ていたので、部屋の掃除のために起こさないでください、と言う時の決まり文句。普通はこう書いてあるカード状のものを外側のドアノブにぶら下げる。
- b** Don't mind. は「気にするな」と訳せなくはないものの、「気にするな」は本来 Never mind. である。
- c** concern は本来他動詞なので、Don't concern. という発話は行われぬ。
- (7) ℓ. 58～59の描写から、ドクは魚に餌をやろうとしていることがわかる。それを見たケイトが、“Don't do that. I ( ㉑ ) it this morning.” と発言したのだから、空所には「餌をやった」が入るべき。feed の過去形は fed である。
- (8) 水槽の魚を食べたのは誰かということを知っている。ℓ. 24～27でベッシーが魚を生のまま食べたという箇所を参照。

**全訳**

ジャックとベッシーとアイライナーが、皆そろって玄関先に座っているのはそうよくあることではなかった。同じ住居を共有してはいるものの、それほどうまく折り合いがついてい  
るわけではなかった。そんなわけで各自、別々の角に腰を落ち着けていた。ジャック・

ロビンソンは、細身の敏捷な動きのできる体格と、見てくれのいい顔にすっかり自信があるので、階段の一番上に落ち着いて座り、超然とした様子で通りの遠くのほうを見下ろしていた。

「腹が減って死にそうだ。」自分の左側にいるベッシーをちらっと見ながら言った。彼は彼女に惹かれていたが、距離はおいていた。一度だけ近づこうとしたものの、その時は彼女が彼の顔をびしゃりと叩いた。

「なら、何か食べ物を取ってくればいいじゃないの。」

「待ってるのさ。」

「何を？ 路面電車？」ベッシーは尋ねた。

「夕飯さ、待ってるのは。」

「なら、私を見てもしょうがないでしょ。」

「おなかがすいてるの、ジャック？」

ジャックは体をひねってアイライナーを見た。彼の後方に座っていたからだ。「すいてるなんてもんじゃない、腹が減って死にそうだ、ってさっき言っただろ。」

アイライナーというあだ名がついたのは、実のところ、彼女の大きな緑色の目がめったにないくらい黒い皮膚で縁取られていて、彼女の丸みを帯びた白い顔にあって対照的に目立っていたからだ。彼女はかなりかわいらしかったが、臆病で内気な性格のせいで、親しい関係を結ぶのが苦手——特にこのジャックとベッシーとは——だった。

「私何かとってきてあげてもいいけど…。」

「いや、お構いなく。夕飯を待つんでね。あいつらは急いでほしいもんだ。」彼はいらだたしげに息を吐いた。

「私はちょっと前に食べたわよ。」ベッシーが言った。

「何を？」

「お魚。ぴちぴちのお魚。日本語で言うところの活造り。日本人は生きたままで出すのよ。とってもおいしいの。」

ジャック・ロビンソンは、自分の無関心さの装いを保つためにあくびをしたものの、彼女の言葉は、かえって彼をさらに空腹にした。アイライナーは自分にも皮肉な物言いができるだけの度胸があればと思ったが、ベッシーに気おされてしまっていた。①なんでジャックはいつでもベッシーを盗み見ばかりしているのか彼女には理解できなかった。自分はいつも優しいけれど、ベッシーはジャックに対して傲慢で意地悪だ。もしかしたら、あの例の説明不可能な男の行動ってやつの一つかも。彼女は耳の裏側を自分で搔いて、この場の流れに身を任せることにした——少なくとも今はしょうがないわ。でもいつかその日が来たら。

「②あいつ、いったいどうしちゃったんだ〔あの男の問題は何なんだ〕。いつも金曜日は遅く帰ってきやがって。俺たちが腹をすかして待っているって知ってるくせに。明らかに、あいつはあのうるさい仲間たちとどっかで飲んでいやがるんだ。あいつらの一人を夕飯に連れて帰ってくるなんてごめんだぜ。」ジャックは言った。胃袋が落ち着かなげにぐうぐう鳴っている。

アイライナーは思い切って言ってみた。「でもバーベキューをするんなら、たまにはステーキとかエビを食べさせてもらえるかも。」

ジャックはまたあくびした。「その通りだ。ステーキとかエビとかな。おれの好物だ。だが、いいか、ここはバーベキュー慣れしてるオーストラリアじゃないんだ。あのバカたれが、バーベキューの火を起こすのにどれくらい時間がかかると思うんだ？俺は今世紀中に何か食いたい——できれば今すぐ。」

ベッシーは会話に加わりたくはなかったが、自分を押さえることができなかった。「少しわがままでとは思わないの。タダでいられる場所も、タダの食事もある、家の仕事は何もしなくて気の向くままに出たり入ったりできるのよ。あの人たちは誰も拒絶できないことはわかってるでしょ。私たちって運がいいって思われてるはずだよ。」

耳触りなブレーキの軋む音が会話を中断させた。一台の車が縁石のところまでやってきたところだ。ドクは食料品を持って車を降りると、ドアにロックし階段を昇った。

「やっただぜ。」ジャックは小声で文句をいった。

ドクは手を差し出した。給料日なので機嫌がいい。だがジャックからは何の応答も得られなかった。

彼は家のドアのカギを開けて中に入った。「ただいま、遅くなってすまん。あの子たちは皆玄関先に座って何をしてるんだい。あんなことはめったに見ないね。いつもはケンカしてるのになあ。」

「きっとおなかがすいてるだけよ。」

「挨拶もしてくれなかったよ。」

ドクの妻、ケイトが笑った。「バカなこと言ってるんだから。」ドクは買い物袋をキッチンテーブルに置くと、水槽の脇の机に置いてある魚用の餌の小さな箱を取った。

「やらなくていいわよ。私が今朝あげたんだから。」

ドクは小さな水槽の海藻を指先でつつき回した。その次には四つん這いになって机の下を覗き込んだ。「ねえ、魚はどこにいるんだ。姿が見えないぞ。」

「ええっ！ベッシーだよ。毎日水槽をじっと見ていたもの。」

「ああ、きっとあの子に違いない。床に落ちてもないし、机の裏に挟まってもいないから。今日はあの子には餌をやらなかったのかい。」

「戸棚の中にはあの子たちにあげるものが何も残ってなかったし、仕事の前にお店に行く時間もなかったの。でも、その後で買い物はできたわ。器に入れたらあの子たちを中に入れてあげてよ。そしたら私がステーキとエビのサラダを用意するから。今まで時間がなかったの。」

ドクは3つの器に餌を入れて、間をあけて床に置いた。彼が玄関のドアを開けてやると、ジャック、ベッシー、アイライナーは声を一つに合わせて鳴いた。「やっただ。」

**注**

ℓ. 1 ◇ the front porch : 表玄関のすぐ外側にある、屋根やひさしがついているスペース

ℓ. 2 ◇ living quarters

○この quarter は「東西南北のうちの一つ（世界の四分の一）の方位；方角」の意味が広がり、「地域；地方；方面」、さらに範囲が限定され「(一時的に住む)居所；宿所」となった。

ℓ. 3 ◇ Jack Robinson : 「あつという間に」を意味する cliché である before you can say

Jack Robinson からつけられた名前であろう。行動が機敏な様子を表現したものと思われる。

- ℓ. 4 ◇ agile = moving quickly and lightly  
○前項 Jack Robinson 参照。
- ℓ. 11 ◇ A street car?  
○この発言者は、米劇作家 Tennessee Williams の代表作 A Streetcar Named Desire を読んだか、観たかしたようである。もしくはアメリカの深夜映画では繰り返し放映されているので、映画版を観たのかもしれない。いずれにせよ、辛辣なユーモアの持ち主と思われる。
- ℓ. 40 ◇ for a change 「いつもと違って；マナーを避けて；たまには」
- ℓ. 41 ◇ this isn't Australia.  
○「毎日が休日のようなもので、バーベキューが始終行われているオーストラリア」という揶揄的見方が背景にあると思われる。
- ℓ. 44 ◇ would have preferred : 假定法過去完了 (の帰結節)。  
○省略された假定節の内容は「普段であったならば」などが想定されている。  
◇ aloof = remote in manner
- ℓ. 45 ◇ you're being a little selfish  
○ be 動詞の現在進行形。今一時的に a little selfish な態度・振舞いをしているということ。
- ℓ. 46 ◇ You know they can't say no to anyone.  
○「お人よしの人たちなのでつい何でも許してしまう」ということを言いたいのだろう。
- ℓ. 47 ◇ Some would consider us lucky. : 《假定法過去》 假定節の内容は主語 some に内包されている。  
○第5文型 SVOC であることにも留意。
- ℓ. 50 ◇ "About time." : It is about time S + V (假定法過去)  
○発話時点で当然起きていなければならないことを強く訴えていることを示唆する表現。S+V 部分は、文脈によって推測できるので省略されている。
- ℓ. 51 ◇ extended his hand 「手を差し出した」  
○友好や親しみのしるしとして、挨拶の「握手」を期待した動作。
- ℓ. 54 ◇ That's not something you see every day. : 「not ~ every の組み合わせで部分否定を構成するので、直訳「それは毎日見かけるようなものではない」だが、これは一種の強調表現で「めったに見かけるものではない」の意。
- ℓ. 62 ◇ on his hands and knees 「(人が) 四つんばいになって」
- ℓ. 67 ◇ cupboard [kʌbəd] 発音注意 いわゆる「カップボード」ではない。

## 【6】

### 解答・解説

(1) a

- 「～まで」は through がよい。till (や to) だと Friday を含むか含まないかが曖昧に

なる可能性がある。

(2) a

- meeting after meeting 「会議のたびごとに」

cf. day after day (来る日も来る日も), time after time (何度も何度も)

(3) c

- after ~ 「～に次いで」

(4) c

- with ~ 「～につれて」, with age 「年齢とともに」, with the passage of time 「時が経つにつれて」

(5) c

- with O C 「(付帯状況) OをCした状態で」

cf. with his eyes closed (目を閉じた状態で)

## [7]

### ポイント

今回は名詞中心構文がテーマ。例えば、

① He is a good swimmer.

② He can swim very well.

という2つの文を例としてあげると、①②とも「彼は泳ぎが上手だ」という意味になるが、両者をよく観察すると、①の good は普通の「善良な；親切な」の意味ではなく、また①の swimmer も単独の時の「泳ぎ手；水泳選手」という意味ではないことがわかる。①の a good swimmer は不可分の単位であって、これ全部で「泳ぎが上手な人」ということを言っている。英語にはこの型の表現が多い。

My mother is a nice cook. (私の母は料理がうまい。)

Miss Smith is a nice singer. (スミスさんは歌がうまい。)

Jane is a nice dancer. (ジェーンは踊りがうまい。)

Generally speaking, girls are better linguists than boys.

(一般的に言って、女子は男子より語学が得意だ。)

Mr. Smith is a good listener.

(スミスさんは聞き上手です / 人の話をよく聞いてやる人だ。)

さて、上の①、②を比べると②では can swim very well と述語動詞を中心にしてその意味を表すのに対して、①では述語動詞は軽い be であり、意味の主要部分は a good swimmer という‘形容詞＋名詞’の構造になっている。このように‘意味の主要部分を名詞が担う構文’を名詞中心構文といい、これは英語を英語らしくさせるひとつの重要な特徴となっている。

‘名詞中心構文’には様々な形態があり、‘take care of 型の慣用表現も、‘無生物主語’も‘同族目的語’も同じ‘名詞中心構文’のあらわれである。

Ex. Let's have a swim here. (ここで泳ぎましょう。)

What kept you? (なぜ遅れたのか。)

She smiled a sweet smile. (彼女は甘く微笑んだ。)

**解答**

- (1) good violinist
- (2) politely
- (3) when and where (she) was born

**解説**

- (1) He is a good swimmer.と同じパターンで, She is a (good) (violinist) となる。なお violinist は [vɪəˈlɪnɪst] と発音され, アクセント問題で頻出。
- (2) made an answer「返事をする」を動詞1語で表せば, answer である。形容詞 polite「丁寧な」は副詞にすれば politely だから She answered (politely) が正解。
- (3) the date and place of her birthday (彼女の生年月日) を節の形で表す問題。date に対しては, 疑問副詞 when を, place に対しては疑問副詞 where を用い, her birth を she was born で表して when and where she was born とする。

**【8】**

**解答**

- (1) hands            (2) material            (3) respect [regard]
- (4) content            (5) care

**解説**

- (1) 本問の答えは hands であるが, hand は入試頻出の多義語。
  - ◇ The (hands) of the clock show the time. 「時計の針は時間を示す。」
  - hand は「手による指示」を示し, 「時計の針」の意になる。時計の針は2本あるので複数形。
  - ◇ The house has changed (hands). 「その家の持ち主が変わった。」
  - hand は「持ち手」を表し, 「持ち主」の意になる。
  - 「持ち主を変える」には, 持ち主は複数必要なので, change hands と複数になる。これを「相互複数」と呼ぶ。
  - ◇ Uncle has hired some new (hands) on the farm.  
「おじさんは農場に新しい人手を何人か雇った。」
  - hand は「(働き手・遊び手・書き手などの) 手; 職人」を表す。
  - ここでは, some があるので hands となる。  
e.g. factory hands (職工)  
be short of hands (人手不足)  
another painting by the same hand (同一人物の絵)
- (2)
  - ◇ Wood pulp is the raw (material) from which paper is made.  
「木材パルプは紙が作られる原料だ。」
  - wood pulp  「木材パルプ」
  - a raw material は「原料」の意の基本連語。

◇ We are now called “economic animals” because we have been putting too much emphasis on (material) comforts.

「我々が今『エコノミック・アニマル』と呼ばれているのは、物質的な快適さを与える金をあまりにも重視してきたからだ。」

○ material comfort 「物質的快適さを与える金〔財産〕」

(3)

◇ The two things differ in some (respects).

「その2つは、いくつかの点で異なっている。」

○ respect の基本的な語義は「注目すること」であり、そこから（注目する所）→「点」となった。

*Ex.* In one remarkable respect, Horiuchi was different from other pitchers.

（1つの注目に値する点で堀内は他の投手と違っていた。）

◇ I have no (respect) for cowards. 「私は臆病者は尊敬しない。」

「敬意を持って注目」→「重んずること」「尊敬」となった。

*Ex.* He has won respect of all. (彼は皆に尊敬されている。)

(4)

◇ The (contents) of the box were clothes and books. 「箱の中身は衣類と本だった。」

○ contents は「内容物」の意。

◇ The book is well written with a style but lacks (content).

「その本は文体に関してはよく書かれているが、内容に欠ける。」

○ この content は style (文体) に対する「内容」(= matter) の意。

*cf.* clear [obscure] style 「明晰な〔不明瞭な〕文体」

(5)

◇ I don't (care) for wealth and fame. 「私は富も名声も求めない。」

○ care for

① 「～の世話をする」

② (否定文・疑問文で) 「～が好きだ」 (= love)

③ (否定文・疑問文で) 「～が欲しい」本文は③の用法。

*Ex.* Would you care for some coffee? (コーヒーはいかがですか。)

◇ They placed the old man under his grandson's (care).

「彼らはその老人の世話を孫に任せた。」

○ under one's care 「～の保護のもとに」「～の世話になって」

*Ex.* I am now under a doctor's care. (私は今、医者にかかっています。)



## 5章

### 問題

#### 【1】

##### 解答・解説

#### (1) d

「自由はとても根本的なものなので、私たちはその重要性をどんなに強調してもしすぎることはないだろう。」

cannot ~ too …という構文は有名だが、too の代わりに enough を用いたり、cannot の後ろに overestimate, overstate, overpraise などの動詞を用いて、「いくら～しても…しすぎることはない」という意味を表すことがある。

cf. You cannot overestimate the importance of world peace.

(世界平和の重要性をどんなに過大評価してもしすぎることはない。)

#### (2) b

「誰にも無心をする必要もなければお世辞を言う必要もない者は、誠に幸せ者である。」

who の先行詞は He である。「借りることやお世辞を必要としない人は満足するのは当然だ」が直訳になる。

○ may well … 「…するのも当然だ、もっともだ」

#### (3) d

「もし定刻に着きかかったのであれば、8時30分ののぞみ号に乗るべきであったのに。」

選択肢に would, could, might がない以上、仮定法ではない (should が仮定法の帰結で用いるのは主語が1人称の場合が普通)。そのため if 節は直説法であり、「そのとき定刻に着きたいと思っていたなら」という意味になる。そのため‘過去の実現しなかった動作’を表す‘助動詞 + have + 過去分詞’の形にすればよい。

○ may have done 「(あのとき) …だったかもしれない」

○ must have done 「(あのとき) …だったに違いない」

○ cannot have done 「(あのとき) ~だったはずがない」

○ should have done 「(あのとき) ~すべきだったのに、(あのとき) ~してしまったはずだ」 (= ought to have done)

○ need not have done 「(あのとき) ~する必要はなかったのに」

#### (4) c

「君が昨日ジョンが好きだと言った時、真剣であったはずがない。当初から彼が君をどんなふうにあつかっていたか知っているんだ。」

本問も、過去 (yesterday) についての現在の判断 (次に I know とある) であるから、‘助動詞 + have + 過去分詞’の形式になる。しかし、must have been では意味が通らない。

#### (5) c

「私の父は (普段は1本しか食べない) 2本のバナナを食べたわずか数時間後に心臓発作

になった。心臓発作のきっかけになったのはカリウムの高摂取だったに違いない。」

It is ~ that …の強調構文。be 動詞が must have been になったと考える。

## 【2】

A.

### 解答・解説

(1) b

「もし一生懸命勉強していなかったら、その数学の試験はそんなに易しくなかつたろう。」

過去の事実を仮想して述べる形式を仮定法過去完了と呼ぶ。条件節は if S had *done* の形となり、帰結節は S would [could ; might ; should] have *done* の形にする。

(2) d

「もしそれがあなたの持っている唯一の辞書であると知っていたなら、その辞書を持っていくことはなかつたのに。」

(1) と同じく仮定法過去完了の文。

(3) b

ルーク「心臓の検査をしに先日病院に行ったよ。」

アリス「結果はどうだったの？」

ルーク「医者、私の血圧が若干高いと言ったけれど、彼は全然心配していないよ。」

アリス「おそらく彼は心配していないのですが、もしそれが私なら、心配になるわ。」

but に続いて「もし私なら」という仮定法の条件が書かれていることから but if it were I, I would be concerned. という文章になると考える。

(4) d

ジェームズ「今日の午後、一緒に科学博物館に行かない。」

ジョン「行ければ行きたいんだけど、無理かな。」

選択肢の省略を補って考えればよい。これに文意を含めて考えると、I would go there with you if I could go. の省略と考えられる d が正解。b では「行こうと思えば行けるんだけど」となるので違和感がある。a の仮定法過去完了はおかしいし、c では it が何を指すのかが不明。

(5) c

「会計士は、予算は次の会計年度まで変更しない方がよいと忠告した。」

advise はいわゆる‘提案・勧告・要求’の動詞の1つであり、後の that 節内は仮定法現在(動詞の原型)か should *do* の形になる。したがって、that the budget (should) not be changed とすべきである。

B.

### 解答・解説

(1) were が不要

「石油に代わる燃料が見つからなければいっただいどうなるだろうかと考えたことはありませんか。」

if S were to *do* の形ではないことに注意。

(2) They が不要

「もしイギリス人ではなくフランス人がアメリカに入植していたならば、今ではフランス語が共通語になっているだろう。」

Had the French settled ~ = If the French had settled ~となる。

(3) happy が不要

「その教授と話をする機会があったらどんなによかったことだろう。」

○ 'How I wish + 仮定法' は, 'I wish + 仮定法' を強調した形。

(4) if が不要

「その事件をもう少し詳細に調査すれば、彼が関係者の1人であることがわかるだろう。」

仮定法の条件が主語に含まれる形。if は不要。

(5) were が不要

「当時野菜を自家栽培していたら、かなりのお金を節約できていただろう。」

Were I you, = If I were you, のような were を先頭に出して if を省略した条件節と勘違いしないこと。条件部分は by growing 以下である。

(6) won't が不要

「先生は、私たちの技術に応じてスケジュールを変えるようにアドバイスした。」

advise は '要求・勧告・提案' の動詞であるから that 節内は仮定法現在 (動詞の原形) になる。また, advised は過去形だから won't はそもそもおかしく, 時制の一致を受けるはずである。

### 【3】

#### 解答・解説

(1) ① made [makes]      ② throw      ③ react

④ lifted      ⑤ assaulted      ⑥ hear

○ assault 「～を激しく襲撃 [非難] する」

(2) b

○ a stick in the mud は直訳すると「泥の中に刺さっている小枝」だが、それが転じて「面白みのない人、退屈な人」という意味を表す。

(3) 「全訳」の下線部③参照。

#### 全訳

新薬の発売は医学会では重大事である。それを開発した会社は豪華なパーティーを開くだろう。株式市場もその知らせに反応するだろう。医師たちは、試供品を使いきれないほど提供されるだろう。そして、米国食料医薬品局が直接的な広告に対する規制を解除した現在では、民衆もまた新聞、雑誌やテレビでの広告活動に圧倒させられることだろう。

医師として、新薬の記事を読んで、処方箋を書いて欲しいと望む患者から話を聞くことがよくある。彼らにとって、私は頭が固く面白みのない人のように聞こえるに違いない。③しかしながら、現在患者が服用している薬が効いていないという状況でない限りは、新薬に変えることには概して私は気が進まないのだ。彼らは新薬の方がより良いと思い込んでいるが、私は従来の薬で十分と思っているのだ。

【4】

A.

**全訳** .....  
英訳聖書の英文学に対する関係に関するいくばくかの知識もなく英文学を学べば、文学教育は非常に不完全なままになってしまうだろう。

B.

**全訳** .....  
酸性雨は湖ばかりでなく木々にも影響を与える。チェコスロバキアは最も酸性雨の多い国のうちの一つで、木々は1960年代に枯れはじめ、以前は森だったが、今は枯れ木しかないという地域が広大にある。1970年代にこの現象は西ドイツでも注目された。酸性雨の生じる主な原因は発電所である。

C.

**全訳** .....  
あちらこちらへ移動するのは、ますます容易になっているが、我々が互いに意思疎通できないために、多くの誤解が生じ、国籍の異なる人々同士の真の触れ合いが不可能になっている。

D.

**解答** .....  
(1) b  
(2) whatever 「全訳」の下線部①参照。  
(3) how  
(4) ~の代わりに  
(5) b

**解説** .....  
(1) by means of ~ 「~によって」《手段・方法》  
(2) no matter what ... = whatever ... 「何が...しようとも」  
ここでの what は system を修飾する関係形容詞。  
(3) no matter how ... 「いかに...しようとも」  
(4) in place of ~ 「~の代わりに」 = instead of ~  
(5)  
a 文字体系のない言語は全て学ぶ価値がない。  
○ worthy of ...ing 「...する価値がある」  
b 外国語を学ぶのに文字体系を最初に学ぶ必要はない。 ㉞.7~8に合致。  
○ It は to try ~ を受ける形式主語  
c 言語を学習するためには、先ず書けるようになることが不可欠である。  
○ it は to learn ~ を受ける形式主語。indispensable 「欠かすことのできない」 ⇔ dispensable  
d もし日本人が今の文字体系の代わりにラテン語のアルファベットを採用したら、日本語はトルコ語のように学ぶのが簡単になるだろう。

○ If S should … 「Sが万一…するとしたら」《仮定法》

**全訳**

文字は言葉ではなく、目に見える記号によって言葉を記録する一方法であるにすぎない。中国やエジプトのように、何千年も前から文字の書かれていた国もあるが、今日話されているほとんどの言語の場合、比較的近い時代になってから文字が書かれ始めたか、あるいは全然文字がないかのどちらかである。①言語はそれを記録するためにたとえどんな体系の文字が用いられようと同じである。それはちょうどある人の写真をどんなふう撮ったとしてもその人に変わりがないのと同じである。1928年にトルコ人がアラビア文字の代わりにラテン語のアルファベットを採用した時、彼らは前と全く同じように話し続けた。文字を研究するためには、言語についていくらか知識がなければならない。しかしその逆は真実ではない。

**[5]**

**解答**

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
- (2) (ア) d      (イ) a
- (3) 誰からも指図を受けずに自分たちだけで事業を行っていること。(29字)
- (4) 一瞬にして築いた財産が一瞬にして失われたこと
- (5) e
- (6) b

**解説**

(1)

長い1文であるが、全体の主要素は The fact made them seem like … という無生物主語を使った第5文型になっている。

the fact は that 以下の同格節を従えて、「…という事実」という意味。who 以下は関係代名詞の非制限用法になっていて、先行詞である the heroes of the early frontier days についての補足説明を加えている。who 以下にある2つの and がつないでいるのは、それぞれ went と turned, farms と villages と small cities である。

○ build A out of [of / from] B 「BからAを作り上げる」 (= make A out of [of / from] B)

ここでの very little は「ほとんど何もないもの」という意味の名詞だが、この部分は 0.7にある very little money or power を受けているので、それを訳文に反映させたい。

- seem like … 「…のように思われる」この like は to be を略式にしたもの。
- wilderness 「荒野；未開の地」発音注意。
- turn A into B 「AをBに変える」

(2)

(ア)

○前後の2つの文の関係をきちんと把握する必要がある。

○直前の文の要旨：アルジャーの小説のテーマは、貧しい人でも自分を信じて努力を重ねていけば成功できるということである

直後の文の要旨：アメリカは機会均等の国である

○この2つの文は明らかに、結果 ⇒ 原因・理由という関係になっている。

a 「だからといって…ということではない」

cf. that is to say … 「それは…を言うためのものである」 → 「すなわち…」

b 「そういうわけで」

c 「だからといって…ではない」 これは a と同じ意味。

d 「この理由は…である」

(イ)

○これは文脈と動詞を使った熟語の知識を問う設問。

○「中小企業が依然として新しい事業の大半を…」

a 「(ある数量の中で) …の割合を占める」

account for …には、他にも「…を説明する」「…の原因となる」という意味がある。

b 「…に頼る」「…によって決まる」

c 「…で苦しむ」

d 「…の代わりをする」 (= replace … / displace …)

(3)

文字通りには「私は自分の上司である」という意味で、ここから推理することも不可能ではないが、内容説明問題は形を変えた和訳問題になっていて、説明に該当する部分が本文にあることが多いことを意識しておきたい。

直前のℓ. 28には、conduct their business and their lives without taking orders from anyone above them とあるので、ここが該当部分になる。

○ conduct 「～を行う」

○ take orders 「命令(指図)を受ける」

○ above ～ 「～より上位の」

(4)

○これも明らかに文脈問題になっているので、下線部だけを見たのでは意味をきちんと把握できない。

○下線部の直前には、as ～ as … という比較表現が使われていて、「株価は急上昇したのと同様に急落した」という内容が述べられている。

○下線部も同じ比較表現になっているために省略が行われている。それを補うと、fortunes made overnight were lost as quickly as they were made となる。

○ make a fortune 「財産を築く」

○ overnight 「一夜にして；突然」

(5)

a 「初期の起業家は主として大企業から資金を調達した。」

第1段落の最終文には、起業家にはほとんど資金も権力もなかったことが述べられている。

b 「独立独歩の人についての話はすべて、実は架空のものにすぎなかった。」

第4段落には、アルジャーの小説に出てくる貧しい登場人物の成功物語のことが述べられているが、第3段落までに述べられている起業家についての説明は虚構ではなくて事実である。

c 「アルジャーの小説は今日ではほとんどどこにも見つからない可能性が非常に高い。」

○ be to = can; practically = almost

第5段落第1文には、今日ではアルジャーの小説を読むアメリカ人はほとんどいないことが述べられているが、本が残されていないかどうかに関しては判断できない。

d 「『ドットコム』企業に巨額の資金が投じられたのは、大きな利益を上げていたからである。」

第6段落第3文には、ドットコム企業への投資は業績ではなくて将来性を見込んでのためであることが述べられている。

e 「ロス・ペローは公職に立候補した。」

最終段落最終文には、ロス・ペローが無所属で大統領に立候補したことが述べられている。

(6)

表題選択問題は、マクロの視点で全体の大きな流れをつかみながら読み進むことを実践するためのものであることが多い。一般的に、表題の選択肢の中で too broad (広すぎる) ものや too narrow (狭すぎる) ものは文章全体の内容を予測させるのには不適切であることが多い。

この文章のテーマは明らかにアメリカにおける起業家である。これをフロンティア時代に活躍したヒーローと重ね合わせて、起業家が果たしてきた大きな役割を評価している。

a 「新しいビジネスの始め方」

b 「ビジネスヒーローとしての起業家」

c 「アメリカのビジネスの世界」(too broad)

d 「起業家とは何か」

#### 全訳

ビジネスを富やアメリカの伝統的な価値観と結びつける考え方が多いせいで、ビジネスでの成功者たちは、時にはアメリカ人のヒーローとなった。起業家は伝統的なアメリカの価値観の最も純粋な形での例に、多くの理由でなっている。一番の理由は、彼らは何もないところから何か偉大なものを作り上げることに成功することである。100年以上前にアメリカの重要産業、例えば鉄鋼業・鉄道業・石油精製業などを築いた人たちはたいい起業家であった。彼らはお金も権力もほとんどないところから始めて、最終的には莫大な富を生み出す巨大企業の最高責任者になった。

① このような初期の起業家がほとんど資金や権力をもたないところから巨大産業を築き上げたという事実のせいで、何百万というアメリカ人には起業家は、アメリカの広大な未開の地を開墾して森を農場・村・小さな町に変えた昔のフロンティア時代のヒーローのように思われた。フロンティア時代の昔のヒーローと同様に、強固な個人主義者と見なされていた。

起業家は、自らは普通の人から身を興すことが多く、受け継いだ社会的称号や受け継いだ



財産の助けもなしに「独力で立身した」大富豪になった。こうして彼らは、機会均等というアメリカ人の考え方が機能している申し分のない例になった。

初期の起業家のサクセスストーリーの大きな影響は、ホレイシヨウ・アルジャーの小説が大人気になったことに見られる。これらは19世紀末から20世紀初頭にかけてアメリカで出版されたものである。合わせて約1700万部がアメリカの大衆に売られた。アルジャーの小説のメインテーマは、アメリカでは貧しい都会の少年や貧しい農家の少年が一生懸命働き、他人に頼るのではなくて自らの力だけで生きていけば、裕福で成功した実業家になりうるということである。というのは、アメリカは誰もが成功するチャンスを持つ機会均等の国だからである。

ホレイシヨウ・アルジャーの小説を読むアメリカ人は今日ではほとんどいないが、アメリカ人は依然として「自分の力で成功する」起業家として富と成功を得るという考え方に触発されている。ほとんどのアメリカ人の心に響く、起業家の決定的な特徴は上からの権力に服従することをひどく嫌うことである。昔からアメリカ人は、自分の上位にいる誰からも指図を受けなくて自分の事業や生活を管理する起業家を称賛してきた。アメリカ人は「自分は誰にも雇われずに独立している」と言える人々を大いに尊敬している。すべてのアメリカ人労働者の半数以上が、いつか自分の事業を持ち独立することを夢見ている。

1990年代には、インターネット関連の事業を行う企業を立ち上げる人は何千人もいた。しばらくの間、このような「ドットコム」新規事業は大成功した。何百万ドルものベンチャー資本が、業績ではなくて将来性のために新技術の会社に流れ込んだ。株価が急騰して、若い大金持ちが一夜にして誕生した。それから、ドットコムバブルがはじけた。このような会社のほとんどはまだ利益を上げておらず、多額の借金を抱えた。金利が上昇したとき、このような会社は借金を処理することができなかった。投資家はただちに支援を打ち切った。株価は上昇したのと同じ速さで下落して、一夜にして築いた富が一夜にして失われた。アマゾン・ドットコムやヤフー・ドットコムなど比較的少数の会社だけが生き残って、高利益を上げる大企業になった。

今日、多くのアメリカ人は、自分の小さなビジネスを始めるのに必要な金銭的リスクを冒すのを依然としていとわない。新規企業の半数は最初の数年以内に倒産するものの、中小企業はそれでもなお現代のアメリカ経済において作り出される新規事業の大半を占めている。こうした会社と起業家のリーダーたちはアメリカにおいて重要な役割を果たしている。すべてのアメリカ人労働者の半数以上が従業員数が100人未満の企業に雇用されている。さらに中小企業は、アメリカ市場、特に技術分野において創造性と技術革新の重要な源である。家のガレージでアップル・コンピュータを創業したスティーブン・ジョブズ、マイクロソフトを世界企業に発展させたビル・ゲイツ、無所属で大統領に出馬した独立独歩の大富豪ロス・ペローなどの起業家のヒーローに触発されて、リスクをいとわない起業家は今でも「大成功する」という大きな希望を持って事業を始める。

**注**

ℓ. 4 ◇ for a number of reasons 「多くの理由で、いくつかの理由で」

a number of ～ 「ある数の～」 → 「①多くの～ (= many) ②いくつかの (= some)」 どちらの意味になるかは文脈による。アメリカでは①の意味で使われるこ

とが多いが、ここではあいまいである。

- ℓ. 6 ◇ oil refining 「石油精製」
- ℓ. 7 ◇ end up as ~ 「最後には~になる」  
cf. end up ...ing 「結局は...することになる」
- ℓ. 12 ◇ rugged 「厳格な」
- ℓ. 13 ◇ individualist 「個人主義者」(思想や行動において独自の立場をとる人)
- ℓ. 14 ◇ aid 「助け」  
◇ inherited 「受け継いだ」
- ℓ. 15 ◇ self-made 「独力で立身した；独立独歩の」  
cf. a self-made person [man] 「独立独歩の人；自力でたたき上げた人」  
○これはアメリカン・ドリームの実現者と見なされている。
- ℓ. 16 ◇ equality of opportunity 「機会均等」  
◇ in action 「機能して」
- ℓ. 22 ◇ rely on oneself 「自分の力だけで生きていく」  
◇ A rather than B 「①BというよりはA ②BではなくてA」  
◇ land 「国」
- ℓ. 25 ◇ inspire 「~を触発する；鼓舞する」  
◇ make it 「成功する」(= succeed)  
◇ on one's own 「自分の力で」
- ℓ. 27 ◇ submit to ~ 「~に服従する」  
◇ higher authority 「上からの権力」
- ℓ. 32 ◇ thousands of ~ 「何千もの~；多くの~」
- ℓ. 33 ◇ for a time 「しばらくの間」(= for some time)  
◇ “dot-com” start-up business 「ドットコム新規事業；ネット企業」  
◇ wildly 「ものすごく」
- ℓ. 34 ◇ pour into ~ 「~に流れ込む」
- ℓ. 35 ◇ promise 「有望さ；将来性」  
◇ stock price 「株価」  
◇ shoot up 「急上昇する」
- ℓ. 36 ◇ bubble 「バブル」(過熱な投機によって資産価値が実体から異常に遊離した事業)  
◇ burst 「破裂する」
- ℓ. 37 ◇ make a profit 「利益を上げる」  
◇ heavily in debt 「膨大な借金をして」
- ℓ. 38 ◇ interest rate 「金利」  
◇ investor 「投資家」  
◇ withdraw 「~を引き揚げる」
- ℓ. 42 ◇ be willing to do 「…するのをいとわない」  
○この表現には積極的にしたいという気持ちは含まれていないことに注意。  
cf. be ready to do 「喜んで…する」

- ℓ. 48 ◇ innovation 「革新」
- ℓ. 50 ◇ global giant 「世界企業」
- ℓ. 52 ◇ launch 「(事業など) を始める」
- ◇ make it big 「大成功する」

<参考>

- 鉄鋼王 Andrew Carnegie, 鉄道王 Cornelius Vanderbilt, 石油王 John Rockefeller は起業家の例である。
- ホレイショー・アルジャー賞 (苦学して出世した人を表彰するため毎年数名のアメリカ人に与えられる賞で1947年に創設された。)

## 【6】

**解答**

- (1) a      (2) c      (3) c      (4) d      (5) b

**解説**

- (1) 「虫眼鏡を使えば、それはもっと大きく見える。」

magnifying glass は「虫眼鏡」(cf. magnify = make something appear larger than it really is), make ~ do は「~に…させる」, look ~ は「~に見える」。

- (2) 「私にそうしてほしいのですか。」

would like ~ to … で「~に…してもらいたい」の意。

- (3) 「私はその少年が小鳥を持って森から出てくるのを見た。」

知覚動詞 see があるから carry と carrying のどちらも入ると思った人は読解力不足。saw の補語に当たるのは come であり, come の補語に当たるのが空所である。come … ing で「…しながらやって来る」の意だから, 空所に入るのは carrying のみ。

cf. He came running. (彼は走ってやって来た。)

- (4) 「蜂たちは蜂蜜を集めるのに忙しい。」

be busy …ing で「…するのに忙しい」の意。a, b の correct は「~を訂正する」の意の動詞。collect (~を集める) と混同しないように注意。

- (5) 「猫が鳥かごに近づいてくるのを見て、カナリアは鳴くのを止めた。」

stop …ing で「…するのをやめる」の意。stop to do は「…するために~(それまでやっていた動作)をやめる」の意。cage = a box, usually made with wire or bars, in which birds or animals may be kept (文脈により「鳥かご」「かご」「おり」などの日本語に対応する。)

## 【7】

**ポイント**

今回は、代名詞の問題として頻出の another, other, others, the other, the others の使い分けの問題である。これらはリスニングにおいても重要なので、反射的にできるようになるまで練習しておきたい。

**解答**

- (1) the others      (2) another      (3) other  
 (4) the other      (5) others

**解説**

(1) 「ここにスーツケースが5つありますが、私は2つしか運べません。残りを持ってきて下さい。」

残りは  $5 - 2 = 3$  で3個。「複数で残り全部」を表す the others が入る。

(2) 「この仕事を終えるのにあと2年かかるだろう。」

two years を1つのまとまった期間と考えて、「もう1つの」の意の another を入れる。

Ex. In another three hours the storm ceased.

(その後3時間経って、嵐は止んだ。)

(3) 「ジョンは留学中に、年老いた父に1週間おきに手紙を書いた。」

every other week 「1週間おきに; 2週間に1度 (= every two weeks)」も前問と同様、two weeks を1つの単位と見ている。したがって、'every + 単数名詞' の例外とはならない。

e.g. every other day = every two days = every second day (1日おきに)

また、write to ~ (= send a letter to ~) は、ただ「手紙を書く」だけでなく、「手紙を出す」行為も含む点に注意。

cf. I write home every day. (私は毎日家に手紙を書く。)

(4) 「その双子はとてもよく似ているが、両親は2人を区別できる。」

twins の一方を one とすれば、もう一方は「単数で決まったもの」と考え、the other となる。

(5) 「コーヒーが好きな人もいれば、紅茶が好きな人もいる。」

Some ~, others ... 「~もいれば…もいる (= Some ~, some …)」 others は「不特定な部分集合」を表す。

**[8]****解答**

5 the      9 a      13 a      24 a      34 a      41 the

**解説**

テーマは「冠詞」である。「冠詞」について、今回は、「the は限定 (相互了解特定) を示し、a, an は可算名詞の不特定 (相互未了解不特定) を示す」という原則のみを念頭に置いて考えてみよう。

2 rice は一般的に「米」を意味する不可算名詞であるから、無冠詞でよい。

5 この rice は洗うべき特定の米であるから the が必要。

この rice と the rice との関係は、次の例文 salt と the salt の関係に等しい。

cf. Salt is a white substance in the form of crystals used for favouring or preserving food.

(塩は食物の味付けや保存に用いられる結晶の形態をした白い物質である。)

Pass me the salt, please. (塩をまわしてください。)

- 9 saucepan (シチュー鍋) は可算名詞でここでは任意の 1 個の鍋を示すから a をつける。
- 13 quarter は a quarter で「4分の1」の意味をなす。
- 16 water は不可算名詞で, one and a quarter cups of water で「水 1 カップと 4分の1」を表す。
- 19 この cup には each がついているのでこのままでよい。
- 21 この rice は cup of ~ の形で用いられていて量を表すから冠詞不要。
- 24, 34 on a high gas, on a low gas, gas は通常は不可算名詞だが, 種類に言及する時は可算名詞になる。ここでは相互未了解不特定と考えて, a をつける。
- 41 switch off するのは, 今使っている gas なので相互了解特定と考えて the をつける。

今回の問題は難しかったと思うが, このような正誤訂正問題は東大でよく出題される形式である。対策としては2学年～3学年前半まではこの形式の問題をこなすのではなくて, 基本的な文法事項を正しく理解し (つまり語学的な根拠のないテクニックに走らず) そのうえで正しい今日的な英文を数多く, すらすらと言えるようにすべきであろう。

解答例

- (1) Vietnam is the world's second largest exporter of rice.
- (2) Today it's warm like〔as warm as〕 spring despite it being February.
- (3) The prison has no less than 1000 inmates, out of whom only forty are women.
- (4) A friend suggested to me that I (should) add one of her friends to my list, but the trouble is that I cannot find him when I put his name in search.
- (5) Never before in history has a statesman run for president with the idea that economic reforms should come first before any other political problem.
- (6) I can no more believe that my favorite actor married the infamous〔disreputable : notorious〕 actress than I could force myself to believe that  $1+1=3$ .



会員番号	
------	--

氏名	
----	--